

# しまなみだより

第18号 2022年4月発行



春暖の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

3月24日には、卒業証書・学位記授与式が執り行われ、卒業生62名が巣立っていきました。卒業生を待ち受ける世の中では、新型コロナウイルス感染症が流行し、3年目に突入した今もなおその収束の見通しが立たず、人々を苦しめ、生活への不安は尽きません。このような時代に、保健医療福祉に従事する者として新たな道を歩み始めた卒業生に、心からエールを送りたいと思います。またいつかの日か、新任地で活躍する卒業生に再会できることを教員一同楽しみにしております。

今号では、令和3年度後期の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学科 / 看護学コース広報係)

## 養護教諭養成課程の授業がスタートしました

今年度4月入学生から、看護学コースでは、看護師、保健師に加え、養護教諭(1種)を養成することになりました。養護教諭は「保健室の先生」と呼ばれ、保健室を中心として学校の教育活動を通して、子どもたちの心と体の健康を守り育てる役割を担う存在です。

後期(第3クォーター)から「教育学概論」「教職入門」(教職科目)と「養護概説」(養護に関する科目)が始まり、11人の履修者でスタートしました。3年後の教員採用試験で必須となる教職科目では基礎的な知識や教育の原理原則を学びます。養護概説では保健室を中心とした養護教諭の活動について、身近な事例などを題材にグループワークをとおして自身の養護教諭観を膨らませています。少人数の良さを生かし、対面でもオンラインでも対話を積極的に取り入れることにより、学びを深め、次年度への意欲も高まっています。(沖西紀代子)



養護概説の授業風景



# 1～4年生の授業紹介

## 1年生 成人の健康と看護

成人期は経済発展に寄与する“働き盛り”の世代であり、かつ将来を担う子どもたちを育成する“子育て世代”でもあり、社会を支えている人々です。「成人の健康と看護」では、このような成人期にある人の健康を多角的にとらえ、複雑で多様性を増している健康状況や健康生活に関する基礎的知識を学修します。生涯発達論や他者との相互性、また生活や仕事といった概念に基づいて、イメージしやすい事例を設定し、大人の健康と生活を理論的に理解することを目指しています。また、医療制度改革・医療システムの変革に伴い、看護師の役割は拡大していることから、あらゆる健康問題に対応するための看護アプローチの考え方や方法を学ぶことに重点を置いています。さらに、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、成人期にある人が最適な健康状態を維持するために、最新のデータや情報から専門知識に基づいた提案ができる看護師の基盤づくりをしています。

(岡田淳子)



成人の健康と看護 授業風景

## 2年生 地域包括ケアシステム論

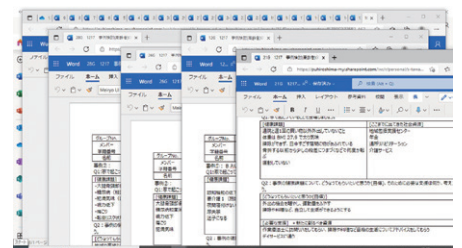
地域包括ケアシステム論（2年次・4クォーター）は、保健福祉学部5学科共通必修科目です。今後、医療保健福祉に関する職業に就く学生には地域包括ケアシステムの知識と、それを構築する能力が必ず必要になります。この科目は、保健医療福祉を発展させる科目群に位置づけられ、関連する知識・技術とともにチームアプローチの重要性を理解することもねらいとしています。

オンラインで実施した第4回目の授業では、30グループに分かれて高齢者保健の事例を検討しました。多学科の学生で行うグループワークは初めてのことでしたが、「他の学科とのディスカッションで、自分の職種がどのようなことができるのか、新たな発見ができ、しっかりと自分の立ち位置を確認することができた。」「各学科がよく知っていることを出し合えて、協力して課題解決に向けて話ができたとと思う。」など、2年生の時点でお互いの専門性を意識するとともにチームアプローチを体感する機会となっていました。

(俵 志江)



オンライン授業で実施しました。



ワークシートで意見を共有しながらグループワークを進めました。

## 3年生 老年看護実習

今年度の老年看護実習は、公立みつぎ総合病院での見学実習と学内実習を組み合わせ実施しました。見学実習は、1名の担当看護師に1～2名の学生が同行し、患者の多様性を理解しながら、高齢者の健康と生活を支えるための看護について学修しました。看護師の行為の意味や患者の反応の意味を考えながら見学することを心がけてもらうことで、限られた環境の中でも多くの学びを得ていたようです。公立みつぎ総合病院で働いている卒業生が、丁寧な指導で後輩の成長に一役買ってくれて、その姿に頼もしさを感じました。

学内実習では、臨床講義を受けたり、認知症高齢者の事例を用いたグループワークを行ったりすることで高齢者と家族に必要な支援を考えました。また、動物介在活動を体験する機会を設けるなど、複数の教材を提示することで総合的に学べるよう工夫しました。限られた条件の中で学生が多くのことを学んでくれたことを嬉しく思います。

(山中道代)



病院では、先輩から丁寧な指導を受け、メモを取りながら熱心に耳を傾けました。



高齢者になったつもりで、動物介在活動を体験しました。



## 4年生 チーム医療福祉演習

4年生後期に開講されるチーム医療福祉演習は、これまでに学んできた知識・技術、実習経験にもとづき、5学科横断的な小グループによる討論を中心に授業が展開され、各専門職の役割や連携の実際、チームアプローチの方法とともに、患者・障害者の保健医療のあり方について学んでいきます。



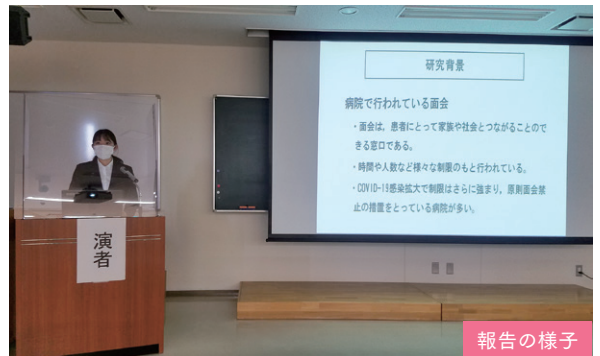
発表の様子

今年は、主にオンラインでの演習となりましたが、学生は実習室で患者の1事例についてそれぞれの専門性にもとづいた支援を画面越しの小グループメンバーに向けて実演し、他学科の学生の専門知識や技術から多くの学びを得ていました。

また、実際に地域で療養や支援を受けながら生活を送る当事者の方に、普段の生活や支援を受けての思いなどをお話いただく機会をもつことで、支援を受ける側からの視点について新たな気づきを得て、対象者のニーズに沿った支援の必要性について改めて学んでいました。この演習をとおり、卒業後はそれぞれの専門性を認め、対象者へのよりよい支援を実践できるよう成長されることを期待しています。  
(加利川真理)

## 卒業研究

卒業研究は、看護学およびその関連領域における研究テーマを設定し、一連の研究過程を学ぶことを目的としています。4年生は担当教員の指導のもと各自が関心をもった1人1題の卒業研究テーマを決め、それに沿った研究手法を用いて分析し論文を執筆しました。コロナ禍で図書館が自由に利用できなかつたり、担当教員とも対面で指導を受けることができなかつたりと、決して容易でない環境下での研究活動でしたが、素晴らしい研究論文を仕上げることができました。令和3年12月20日に、4年生は対面、下級生はオンラインというハイブリッド形式にて卒業研究報告会を行いました。また、発表だけでなく、前日の準備から学生主体で運営もしました。自分が発表するだけでなく、学び合った仲間の発表を久しぶりに対面で聞くことで、大学生活の集大成としてよい体験ができたと思います。論文は「卒業研究論文集」としてUSBで配布いたします。ご家族の皆様も是非ご覧ください。(山田隆子)



報告の様子



令和3年度卒業研究報告会(令和3年12月20日)



# 卒業生アドバイザーの活動紹介

看護学科(コース)では、今年度から、卒業生が在学生の学修支援をすることで学生の成長の機会とする「卒業生アドバイザー制度」を導入しました。その制度を活用し、統合実習で卒業生の河崎さんに臨床での実践を学生に講話してもらい意見交換を行いました。学生は真剣に話を聞き、質問をすることで、「常に患者ファーストであること」「リーダーシップやメンバーシップの具体が分かった」などの学びを得て、自分の看護師像とキャリアビジョンを考えるきっかけになったようです。

(土路生明美)



意見交換の様子

## 卒業生のコメント

早いもので看護師として7年目を迎えようとしております。現在は愛媛県松山市にて妻と2歳の男の子と生活しております。

さて、先日看護学科3年次生に向けて統合実習オンライン講話「看護チームのリーダー、メンバーの実践」についてお話をさせていただきました。満足に実習に訪れることができない中で、学生たちは一生懸命考えたり、質問したりしており、時間が経っても県立広島大学の良さは変わっていないことを実感しました。また、学生たちの姿勢を見て、自らも初心を忘れず、学んでいくことの大切さを改めて感じ取ることができました。

最後になりますが、コロナ禍において私たちの頃とは異なる学生生活を送られていることかと存じます。その中でも自分らしさを失わず、健康に過ごされることを心よりお祈り申し上げます。

(2016年度卒業生 河崎亮太)



県立広島大学  
Prefectural University of Hiroshima

## 教員紹介

### 急性期看護学 講師 中垣和子



急性期看護学を担当している中垣和子です。主に手術を受ける患者・家族への看護について学ぶ講義や実習を担当しています。同じ手術でも患者さんの年齢や既往歴、手術に対する思いなどによってもケアの方法は異なってきます。学生さんが、「日々急激に変化する身体や心に合わせたケア」について考え実践していくことを支えていきたいと思っています。そして、ケアを実践するなかで看護することのやりがいや楽しさを実感してもらえたらいいな、と思っています。

今年度の急性期看護実習は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いている時期だったので病院で学ぶことができました。学生さんは、厳重な感染予防対策を行いながらの実習でしたので本当に大変だったと思います。そのような中で、学びを深め成長していく姿はとても頼もしく感じました。Withコロナ時代、今だからこそ学べる学修内容になるように工夫をしながら学生の皆さんの学ぶ意欲を支えていきたいと思っています。

〒723-0053 広島県三原市学園町1-1

TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)

E-mail nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp

URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursinq/>



ご意見、ご感想など  
お寄せください。

県立広島大学  
Prefectural University of Hiroshima

発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科／保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係